

令和2年度版 改善計画

学校名：山梨県立身延高等学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	統廃合した諸会議を円滑に運営する。	統廃合した諸会議の協議事項・連絡事項の内容が工夫され、かつ、定刻に会議が終了する。	①提案者は提案内容や方法を明確にし、会議時間の短縮を図る。 PCを活用し、会議以外の手段での情報交換等を模索する。 会議開始時に時間設定を行い、定刻で終了する。 新しく始まる学校運営協議会において、スムーズな進行ができるよう研究する。 ②改善点をまとめ、効率よく提案を図る。	
2	学校行事の負担軽減	行事の要項作成や事前準備など、担当の負担が大きい。	行事の精選を進めると同時に、全体の協力体制が構築され、行事がスムーズに運営される。	①行事削減に伴う諸効果を検討するとともに、ゆとりを持った取組となるよう全体の連絡・調整をスムーズに行う。 ②実施直後の見直しを行い、次年度に正確に引き継ぐ。	
3	校内組織の見直し	分掌を5部に再編・統合したが、部内の取組は従来の係の意識が抜けてない。	各部内での従来の係を超えた協力体制が構築される。	①各部内での業務分担を明確にし、業務の平準化を図る。 引き継ぎ資料の改善、課題の明確化を図る。 ②部内において係の枠にとらわれない協力体制を構築する。	
4	業務の効率化	毎年同じ業務内容を繰り返し、課題が先延しされている。	P D C A が機能し、業務の効率化が図られる。	①C A を実施した引き継ぎ資料を作成し、次年度に正確に引き継ぐ。 ②時間外勤務時間月4 5時間以内を意識した業務の見直しを行う。	
5	部活動の負担軽減	日々の練習指導や遠征引率等で、放課後や休日が埋まってしまう。	顧問間での業務分担がなされ、年間を見通した効率的・計画的な指導が行われる。	①休養日の適切な設定など、メリハリのある指導計画を策定し、生徒・保護者に配付する。 ②科学的トレーニング等の導入を目指し、効率よい部活動を行う。	
6	地域人材の活用	高大連携事業では活用されているが、それ以外では低調である。	授業・部活動等において、外部講師・指導者の確保を目指す。	①学校運営協議会を通じて学校に対する意見を広く求める。 状況に応じた適切な人材活用を行う。 ②町との連携を図り、地域の人材を発掘する。	
7	遠隔地勤務の負担軽減 (学校独自の項目)	教員の半数が1時間以上の通勤時間で、その疲労度が高い。	勤務間インターバルを12時間にする。	①教職員全員が時間外勤務時間数を意識し、遅くとも20時には退校する。 月に2度、定時退校を意識する。 ②教職員全員が、時間外勤務時間月4 5時間以内とする。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった